

【庁舎建設に関する地元説明（佐波地域自治会連合会）会議録】

H29. 2. 28 18:00~18:45

1 総務部長あいさつ

【藤津部長】 皆さんこんばんは。市役所総務部長の藤津と申します。本日は説明会にお集まりいただきありがとうございます。佐波地域各自治会長、あるいは民生児童委員の方、あるいは女性部の方には、平素から、防府市の行政各般に渡り、ご尽力を賜り誠にありがとうございます。感謝申し上げます。また、本日は大変貴重な時間をいただき、新庁舎建設に関する説明をさせていただくことができ、重ねて感謝申し上げます。

現在、市では新庁舎の建設について、駅北公有地エリアを選定し、基本構想・基本計画をまとめようとしている。4月に入ると1ヶ月間で、市内全ての地域において、市長が自ら出向いて説明をする予定であり、本日は建設候補地の地元の佐波地域において、まずはこれまでの経緯等について、他地域に先立ってご説明をさせていただきたいということで、この機会をいただいた。

市民の皆様には様々なご意見があるが、市の執行部としては何故駅北を選定したのかを多くの市民の皆様にご説明していかなければならないと感じている。確かにこれまで市民の皆さんに情報がなかなか伝達できていなかったと認識しており、この度、ようやく、基本構想・基本計画が策定できるというところまで来て、いよいよ皆様にご説明できる段階になった、やっと資料ができた、と考えていることをご理解いただきたい。

場所の変更には、3分の2の議員の賛成議決が必要となる。皆様にも様々なご意見があると思う。われわれ執行部としては、駅北公有地エリアでの計画を策定するものの、まずは市民の皆様に関心を持ってもらい、どちらに向かうかわからないが、より多くの市民と一緒に考えていただくことが重要だと考えているので、本日は、よろしく申し上げます。

2 庁舎建設に係るこれまでの経緯等

【石丸室長】 みなさんこんばんは。庁舎建設室の石丸と申します。

【竹末室次長】 室次長の竹末と申します。よろしく申し上げます。

【石丸室長】 私は、新橋に住んでおります。どうぞよろしくお願いいいたします。今、部長が申しましたように、庁舎建設についてこれまで進めてきた進め方とか、15分程度ご説明したいと思います。その後、ご不明な点など、ご質問いただけたらと思います。

先ほど、ちょっと話されたが、4月に入ると市長が全16地区を回ることになるので、佐波地区をいつにするか、今日この後、自治会長さんからお話があると思う。

今日は、佐波地区は地元ということで、早めにお話をしておきたいと思って来たの

で、計画の中身まで詳しくはお話できないかもしれないが、趣旨や進め方など、説明したいと思うのでよろしくお願いします。

駅北公有地エリアと呼んでいるが、八王子一丁目の国鉄の官舎跡地、A3資料の1ページ目右上、敷地が4つくらいに分かれている。これを選んで基本計画の策定を進めているが、これには賛否あり、たくさん意見をいただいている。

1ヶ月くらい前にパブリックコメントを行ったところでも反対意見をたくさんいただいている。また、市議会でも慎重な進め方を求める声などもある。

今日は、改めて、建設候補地の選定理由など、周知不足ということもあるので、これからこのような説明会や各種団体などもお訪ねして、意見を伺いながら、説明もしていき、理解を求める努力をしていきたいということで進めている。

その他の部分、構想・計画の中身については、ご覧いただいております、また、4月の検討会のときでも良いので、ご意見をいただければと思っています。

それでは、資料の「これまでの検討経緯」というところをご覧ください。表の一番上、平成13年3月庁舎建設基金の設置というところ。この基金は、特定目的基金と呼ばれるもので、庁舎の建替えのためだけに使う資金で、積立を開始したのがスタート。平成27年度末現在で約30億円まで積み上がってきている。庁舎の建設には100億くらいはかかるので、積立はまだ必要だが、行財政改革の一つの成果だろうと考えている。

基金の積立は、次世代の負担を軽減するという意味もあるので、財政状況が許す範囲で適正な額を積み立てたいと考えている。

続く、2番目の欄、具体的な検討に着手したのが、平成24年度の第2次耐震診断。一番北側の1号館は、昭和29年の建築、今年で63年と古く、耐震性も低く、例えば筋交いを入れたりする補強の方法が採れないとの判定を受けた。急いで建替えなければという議論もあったが、大きな金額を使う事業であり、まちづくりにも大きく関わるといふことで、じっくり考えていこうということになっている。この状況を受け、次の欄、平成25年には庁内でプロジェクトチームを作って、基礎的事項を調査・整理した。

表の中ほど、平成26年には、学識経験者や各種団体からの推薦者、公募委員に入ってもらって、「防府市庁舎建設懇話会」を設置し、建設場所については置いておいて、庁舎の機能やあり方などの意見を割と自由に協議していただいた。

下から4番目の欄になるが、懇話会の際のメンバーに、障がい者団体の推薦者や公募委員を加えて、平成27年8月に「防府市庁舎建設基本構想・基本計画検討委員会」を設置し、構想・計画の検討をしてきた。

検討の進め方として、まず、建設候補地を決めましょう、その上で、その場所に相応しい計画を立てて、市民の皆さんのご理解を求めていこうという判断をしました。

委員会ではじめの1年で場所の検討をして、2年目に基本構想・基本計画の案を

作成しようということになった。

次に下から2番目、平成28年5月に委員会では「駅北公有地エリア」を選定された。選定された中身は、次の2番のところで説明するが、市の執行部としては、この選定結果を尊重し、この場所での計画を作り上げることとした。

委員会では、大変重たいテーマをお話いただいて、ご労苦もおかけしたが、今後は、行政の責務として、しっかりこれまでの経緯なども含めて、市民の皆様丁寧に説明していきたいと考えている。

私からは、今日は、次の2番の「新庁舎の建設候補地の選定」について、「決定ではありません」と書いてありますが、ここまでのところを説明させてもらおうと思っております。

候補地の選定については、色々な考え方があがるが、そこにあるように5つの評価軸というのを選んで比べている。候補地は、現庁舎敷地と駅北公有地エリアの2つに絞られたが、甲乙つけがたい結果で、それぞれの評価軸でどちらがいいと書いているが、この答えに至るまでかなりの議論もあったものを意見集約したものである。

結局、なぜ、こういう結果になったかという、資料の真ん中辺りに意見書の抜粋を載せている。「要望」と「おわりに」とあるが、「要望」のアンダーラインを引いているところ、「まちづくりへの取組へつなげていくことが、駅北公有地エリアを選定した意義に合致」というところと、「中・長期的な事業計画が構築されることを強く要望します」というところ。まちづくりとか50年100年先の防府ということを考えたときに、現庁舎の敷地よりは駅北公有地エリアのほうが良いでしょうということになった。「おわりに」のほうを読みますと、「長期的なまちづくりの取組へつなげ、市の発展を展望したいという意志と、その実現を希求する強い思いであったのではないのでしょうか」と書いてある。

庁舎が駅北に移転するということが明確に何か上位の計画に書いてあるわけでもない、委員会から私たちへの宿題として、「その後の発展などを見通せ」ということをいただいたと思っており、それが今年の5月ごろのことで、当時は見当もつかなかった。

その後、資料をめくっていただいた3ページに載っているアクションイメージ、庁舎を中心としたまちづくりがどのようにできるかということを作っていくって、歩いて暮らせるとかというのは、車社会の防府では考えにくいといった意見はあったが、結果的には、委員会の皆様にも理解していただいた。この計画だけではなかなか実現は難しいかも知れないが、関連の計画なども考えていくということで、私たちが意図したところを評価していただいた。

一番最後のページになるが、小間切れの用地の中で、この中には八王子一丁目の地元の方もおられるかも知れないが、用地の話については、今のところ、全く声かけなどはしていない。何件か、問い合わせはいただいたりしているが、移転自体も全く決

まってることなので、お話できる状態ではない。

そんな中で、どんな建て方ができるかということを考えている。

今のままの土地で考えたのがA案、最小限の約3,700㎡を買い足したのがB案。さらに民間活力の導入を検討する、例えばマンションやホテルとか併設するというような、色んなことを考えていく案としてB'案。その3つをお示ししている。

ちょっと戻るが、8番の将来像の実現に向けたアクションイメージというので、点線で囲っている部分、旧国道2号や佐波小から市役所にまっすぐ行く道だったり、駅の南側の通りであったり、東側は、産業道路だったり、四角く切り取った形になるが、ここを「防府生活都心」と名づけて、この辺りまでには、庁舎が移転することによるインパクトを与えたいということで示している。

この辺りは、これまで色んな投資というか資源の蓄積がされており、それを活かすためにも新庁舎の建設の意味があるのではないかと考えている。

いずれの土地に建てても、100億からの大事業なので、色々なところで相乗効果が得られるように考えていきたい。

実際には、今後、中心市街地活性化基本計画だとか、都市計画のマスタープランだとかで担保していかなければならないと思っている。

地元の佐波地区でも、今日はじめて説明させていただくことで、これまで全く話ができおらず申し訳ないとも思っていたが、こういうものが出来上がらないと、いくら話しても訳がわからない話になるので、ようやく話ができ安堵している。

色んなお叱りや反対意見などもお聞かせいただきたいと思っており、今日は、その第一歩ということでお話させていただいた。どうもありがとうございました。

3 質疑応答

【参加者1】 駅北公有地に決定なのか。

【石丸室長】 説明が足りなかったようなので、もう一度説明する。

決定ではありません。市役所の位置は条例で決まっており、条例に寿町7番1号と書いてある。これを変更する場合には、地方自治法という法律の第4条で、市議会議員の3分の2以上の同意が必要となっている。

【参加者2】 多くの市民の納得が得られるようにとの話があったが、今日の説明がこのメンバーに限定されて行われる理由は何かあるか。アクションイメージの中で、赤い線で囲った中心に駅北が書いてあるが、富海、大道、小野など防府市の広がりを見ると、現庁舎の敷地も十分に中心だと思う。現庁舎の敷地が中心から外されているのはなぜか。

【石丸室長】 まず、一点目。4月に市長が来てお話しする際は、回覧板などを回して地域の方に広く声かけしたいと思っているが、地元で早く入ってお話をしたいという思い

の中で、今日の会合は時間的な制約もあり、会長さんとも相談させてもらい、このような形となった。

現庁舎の敷地が中心からはずれていることについては、駅北の庁舎がインパクトを及ぼす範囲としてこの範囲を挙げており、大きな道路には沿道に商業が張り付いているので、そこで分けたらこうなったということで他意はない。例えば、中心市街地活性化計画などでは、商業地域を考えることになるので対象地域をもっと広く取ることになると思う。

【参加者3】新しい場所は車で出入りがかなり難しいと感じる。また、現在のあれだけの庁舎の広大な土地を何かに使う計画はあるか。

【石丸室長】東側と南側の県道2本、これまでの交通量調査の結果などからは、交通渋滞を引き起こすまでにはならないとの分析をしている。

跡地利用については、具体的な構想があるわけではないが、今の庁舎の土地は約30,000㎡のまとまった土地なので、例えば、企業誘致の種地などには活用できる可能性はあると思っているが、方針は検討中で決まっていない。

【竹末室次長】補足させていただく。交通量調査の件。室長が申し上げたのは、今までの山口県などの調査結果を専門の業者さんに非公式にではあるが伺ってみたところ、そういうお話だったということで、仮に移転するという事になれば、市として、きちんと調査しなければならないと考えており、その結果によって対応することになる。

【参加者4】今の庁舎ができるときに随分土地を寄附したという話を年寄りに聞いた。その家の人たちの気持ちを大事にしなければいけないと思う。

【石丸室長】十分慎重に気持ちを考えて対応したい。

【参加者5】今ある2案、現庁舎と駅北のどちらがどうか、対比表の5つの項目をもう少し具体的にわかりやすく書いてあるほうがよい。

経済性についてもPFIなどであれば金額的に変わってくるし、どういう風に効果があるかも書いてあるとわかりやすい。

【石丸室長】今回の資料は、先日のシンポジウムのときの資料なので、4月に回らせてもらうときは、もう少し工夫をしたいと思う。PFIなどは是非検討したいが、事業費が縮減する方向でなければ成り立たないと思っているので、そのような説明を加えるなど、考えてみたい。

【参加者6】平成27年9月にアンケートを行っているが、そのときには、場所をどこにするかという項目はなかったか。

【石丸室長】アンケートでは、場所の質問はしていない。というのは、かなりの資料がな

ければ、判断を安直に決めてしまいかねないので、敢えて入れていない。

【参加者7】民生委員だが、高齢者の戸別訪問をしている中で、庁舎が北側にできると交通の便が良くなり、市役所の用を済ませた後、買い物をしたりできる、今の庁舎はバス乗場がどこかもわからないという言葉聞く。

【石丸室長】今の庁舎のバス停は東側に1箇所、北側に1箇所あるが、本数が少なく、利用は少ない。仮に駅北に移転するとしても、かなりの時間がかかるので、現在の庁舎の交通対策も検討しなければならないと考えている。